２０２６年１１月８日（日）　　日本基督教団　大宮教会

降誕前節第７主日

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

朝第１礼拝　9:00～10:10
朝第２礼拝　10:30～12:00
〈神の招き〉
前　　奏　主よ、我らをあなたに御言葉に留めさせてください　ブクステフーデ
招きの詞　詩編６７：２～８
交読詩編　１０５：１～１１
讃美歌　２
〈神の言葉〉
聖　　書　出エジプト記３４：２９～３５
（旧約　聖書協会共同訳 141 頁）
ルカによる福音書２４：２５～３５
（新約　聖書協会共同訳 158 頁）
祈　　祷
讃美歌　２０４
信仰告白　日本基督教団信仰告白
説　　教　「神の言葉である聖書」（信仰告白②）
熊江秀一牧師
祈　　祷
黙　　想
讃美歌　５９
〈神への応答〉
献　　金
主の祈り
宣教報告②
頌　　栄　２８
派遣と祝福
後　　奏　いかに幸いなるかな、信仰深き人々よ　ブラームス
宣教報告①

夕礼拝　18:00～19:10
〈神の招き〉
前　　奏　義しき神、恵みの泉(6)　バッハ
招きの詞　詩編６７：２～８
交読詩編　１０５：１～１１
讃美歌　５８
〈神の言葉〉
聖　　書　詩編２７：４～６
（旧約　聖書協会共同訳 842 頁）
ルカによる福音書１０：３８～４２
（新約　聖書協会共同訳 125 頁）
祈　　祷
讃美歌　３５５
説　　教　「必要なことは一つだけ」
佐藤潤伝道師
祈　　祷
黙　　想
讃美歌　４８３
〈神への応答〉
使徒信条
献　　金
主の祈り
宣教報告
頌　　栄　２６
派遣と祝福
後　　奏　神は我がやぐら　パッヘルベル

今週の御言葉

二人は互いに言った。「道々、聖書を説き明かしながら、お話しくださったとき、私たちの心は燃えていたではないか。」　（ルカによる福音書２４：３２）

次週の礼拝（11月15日）

① ９：００、② １０：３０　幼児祝福
説教「キリストによる救い」（信仰告白③）
熊江秀一牧師
イザヤ書５３：３～５、
フィリピの信徒への手紙２：６～１１
交読詩編７７：１～２１
讃美歌３、５３、５２２、２８

夕　１８：００
説教「祈るときには」
佐藤潤伝道師
詩編１７：１～１５、
ルカによる福音書１１：１～１３
交読詩編７７：１～２１
讃美歌１１７、２２４、４８１、２６

◇先週の説教より　「信仰とは」（信仰告白①）　申命記８章２～３節、ヘブライ人への手紙１章１～３節　熊江秀一牧師

日本基督教団は1941年に日本のプロテスタント教会30余派が合同して誕生した。教会合同は日本の教会の長年の祈りであった。しかし戦時下の国の宗教統制の下での誕生であり、信仰告白もなかった。その教団が、戦後、神の前に悔い改め、共に歩めたのは日本基督教団信仰告白(1954年)による。

信仰告白は「これが私たちの信仰です」との内容を教会内外に示す。教団はこの信仰告白によって教派を越え、一つの教会となった。

この信仰告白は聖書から生まれた。だから聖書を越えるものではない。しかし信仰告白によって教会は聖書を正しく読み、神の言葉として聞くことができる。

荒れ野の旅を終え、約束の地を目前にしたイスラエルの民に、神はこの旅を導いたのは何かと問う。そして「人はパンだけで生きるのではなく、主の口から出るすべての言葉によって生きる」と語った。私たちもそうである。そのために私たちは信仰告白をしつつ神の言葉を聞き続ける。

この御言葉は主イエスである。主こそが人となれた神の言葉であり、永遠の命を与える「命のパン」である。

旧約の時代、神は預言者によって語った。しかし今、神は御子イエスによって語られる。

私たちはこの主イエスと聖書を通して出会うことができる。さらに説教と聖礼典、それが執り行われる教会において出会うことができる。

初代教会の洗礼式の際「イエスを主と信じるか」「神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるか」という問いがあった。それに対して「イエスは主である」「十字架で死なれた主は神によって復活させられた」と告白して洗礼が授けられた。こうして信仰告白が生み出されていった。信仰告白は教会の旗印である。

私たちも信仰告白を告白し、この国で一つになって、主を礼拝し、福音宣教に仕えよう。

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。